

各種脱毛症に対するバザルトストーントリートメントと プラセンタエキスをを用いた新規統合医療的アプローチ

○大塚 江利子¹⁾、平野 栄一¹⁾

1) 株式会社日本生物製剤

【目的】

脱毛症には男性型脱毛症 (Androgenetic Alopecia ; AGA)、円形脱毛症、女性の男性型脱毛症、薬剤性脱毛症など多くの種類がある。とりわけ、AGAは成人男性の2割が対象となり、そのうち約8割が何らかのケアを行ったことがあり、その人口は650万人と報告されている。米国食品医薬品局 (FDA) や欧州医薬品庁 (EMA) によってAGA治療薬が複数承認されているが、有効性は個人に依存し、また複数の副作用の発現が報告されており、治療成功率が高いとは言い難い。また、脱毛による薄毛は男性だけの問題ではなく、出産後、更年期の女性においても薄毛の傾向が確認されている。増加する各種脱毛症について、ホームケアレベルで対処することができれば日常生活の一環として各種脱毛症に対応することが可能になる。そこで、新規の改善策を見出す目的で、標準的なホームケアトリートメントでは効果が得られない脱毛症でお悩みの男女を対象に、血行改善効果を有するバザルトストーントリートメント、毛髪促進効果を有するプラセンタエキスを組み合わせる統合医療的アプローチについて検討した。

【方法】

薄毛を認める箇所もしくは頭部全域にウマプラセンタエキスを塗布し、その後適温に加温した4種のバザルトストーンを用い、45分程度胸部から肩、頸部、頭部を下から上に筋肉全体の緊張を解消させるようにマッサージし、その後施術前と同様にウマプラセンタエキスを塗布した。対象はAGAが男性7名、薬剤性脱毛症が女性1名、多発型円形脱毛症が男性1名の合計9名であった。

【結果】

約3か月間の、薄毛の改善を目的としたモニター9名 (男性8名、女性1名) のうち、全員が目視で改善がわかる程度の増毛ないしはマイクロスコープ画像での増毛を認めた。モニター7名は目視で増毛が確認できるレベルに達し、うち2名は薄毛がほぼ認められない状態まで改善を認めた。また、脱毛の種別として男性型脱毛症、円形脱毛症、薬剤による脱毛があるが、どの種別においても発毛が確認された。実施期間中、有害事象は発生しておらず安全性に問題はなかった。

【結論】

標準的なホームケアトリートメントでは効果が得られない脱毛症でお悩みの男女に対し、バザルトストーントリートメントとウマプラセンタエキス塗布は性差、原因を問わず有効と思われ、新規統合医療的アプローチとして意義あるものと思われる。